

年金友の会 パークゴルフ大会



8月27日、年金友の会のパークゴルフ大会が依田パークゴルフ場「俳句村コース」で開催され、35名の友の会会員が参加しました。

当日は爽やかな晴天に恵まれ、絶好のパークゴルフ日和となりました。高橋組合長の挨拶で始まった今年のパークゴルフ大会は全18ホールを回るコースで、男性の部・女性の部ともに上位3名のスコアが拮抗する中、ホールインワンが3名出る等熱戦が続きました。

その後焼肉ガーデンへと場所を移し和やかに懇親会が行われ、終始笑顔の絶えない1日でした。

第45回 十勝総合畜産共進会 開催



8月30日に十勝農協連常設家畜共進会場にて第45回十勝総合畜産共進会が開催されました。29日午後から出陳牛の搬入が始まり、当組合からも8頭の乳牛が最高位を目指し競い合うため会場入りしました。

審査員は(株)十勝家畜人工授精所の役員の方が務められ、十勝全域から集まった丹精込めて育てられた乳牛の体格や毛並、乳房の状態等を厳正に審査しました。

当組合からグランドチャンピオン決定審査に駒を進める出陳牛は出なかったものの、「十勝の壁は大きかったが、来年こそは」と早くも次回に向けてみなさん意気込んでいました。

J Aネットワーク十勝ポスター写真撮影



9月25日、J Aネットワーク十勝のブランドPRポスターとウェブ用の写真撮影が行われ、青年部長と女性部長が顔写真の撮影とインタビューを受けました。青年部長・女性部長ともに、農業を始めたきっかけ、やりがい、大変だったこと、農作業で気を遣っていること、今後の目標といった内容のインタビューを受け、熱く語っていました。

ポスター・ウェブサイト作成によるPR活動の目的は、十勝の魅力と併せて十勝管内J A系統を通じて販売する農畜産物・加工品について、積極的にPRし、さらに売れる商品づくりを進めることで、消費者の認知度と評価を高め、十勝産品をご愛用いただくお客様や十勝に特別な思い入れを持つ「十勝ファン」を全国に増やし、十勝産品のブランド力を強化することです。

当日の天候は雨だったため、農作業の様子は撮影できなかったものの、ハウスの中で顔写

真や作物を手に持った写真等を撮影しました。初めは少し緊張していたお二人でしたが、インタビューや撮影をしているうちに緊張も解け、和やかな雰囲気取材を終えることができました。

今回作成されるポスターの公開は10月下旬、ウェブサイトの公開は11月中旬の予定となっています。是非JAネットワーク十勝のウェブページをご覧ください。

農村ホームステイ 大阪から2校来勝

6月に引き続き「農村ホームステイ」の秋の受入れが十勝管内の農家で行われ、9月25日～26日に大阪府立高槻北高等学校の2年生が、28日～29日に大阪府立刀根山高等学校の2年生が十勝農業の生産現場を体験しました。

「農村ホームステイ」事業は修学旅行生に農村での生活を体験してもらい、生産現場や十勝の一次産業に興味を持ってもらう事、食の大切さや農業と日常生活のつながりを学ぶ事を目的として幕別町では「まくべつ稔りの里」が主催で平成24年度から行われています。

札内地区では高槻北高校の1クラス38名のうち3名が1戸で受入れ、刀根山高校の1クラス39名のうち9名が4戸で受入れられました。

酪農を体験した学生は子牛の哺乳、牛舎の見学、早朝の搾乳、市場の見学等を、畑作を体験した学生はトラクターの試乗、圃場の見学、トマトなどの野菜の収穫を行い、都会では経験することの出来ない農村ならではの2日間を送りました。

退村式では両校とも、「食べ物の有難みを感じると共に、充実した2日間を送る事が出来ました。みなさんと過ごした2日間は忘れられない思い出になりました。」と生徒代表の挨拶をしました。一泊二日の短い間でしたが組合員の方々と楽しいひと時を過ごした生徒達はバスの窓から手を振り「また遊びに来ます！」と涙を流して別れを惜しむ場面もありました。

ジェネティクス北海道 黒毛和種枝肉共励会



第11回、ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会が、10月4日に一般社団法人ジェネティクス北海道主催で北海道畜産公社において開催されました。北海道における黒毛和種雄牛後代検定事業の理解を一層深め、種雄牛の遺伝的特徴の把握と肥育技術の向上を図ることを目的として枝肉市場開催時に本共励会を併催し、当団繫養種雄牛の枝肉評価・展示・褒賞を行っています。審査委員は日本食肉格付協会、北海道酪農畜産協会、ホクレン農業協同組合連合会の各々から役員の方が務められ、厳正な審査が行われました。

一般の部から89頭、後代検定の部から28頭の出品があり、当農協からは後代検定の部で当農協組合員出品の去勢牛「栄386」が最優秀賞を受賞しました。血統は種牛、茂秀紅葉一忠富士 - 第1花園。検定成績は等級A5、枝肉重量498.0kg、ロース芯面積70cm、バラ厚8.5cm、皮下脂肪厚1.7cm、歩留まり基準値76.4、赤身の肉にどれだけサシ（霜降り）が入っているかを12段階で示したBMS NO. は、最良がNO. 12であるうちのNO. 10という素晴らしい枝肉でした。

第37回まくべつ産業まつり 野菜即売会



10月5日、幕別町百年記念ホール前広場にて第37回まくべつ産業まつりが幕別町観光物産協会主催で開催されました。幕別町の秋の一大イベントであり、今年は天候にも恵まれたことで多くの来場者で賑わいをみせていました。

J AさつないはJ A幕別町との合同出店で旬の野菜を販売する野菜即売会を行いました。メークイン、とうや、たまねぎ、長ネギ、かぼちゃ、キャベツ、ハクサイ、ダイコン、ニン

ジン、そば粉、片栗粉など、季節を代表する野菜が販売されました。販売開始の40分前から販売所前にはお客様が集まり、野菜即売会の人気ぶりがうかがえました。10時の販売開始の合図と同時に次々と野菜は売れ、終了時間前にはほとんどの商品が完売となりました。「毎年この即売会で販売される野菜を楽しみに来ています。」と両手いっぱい袋を下げて帰るお客様が大勢いました。

ステージでは幕別文化倶楽部の豊穰太鼓披露や江陵高等学校吹奏楽部による演奏、ライブやものまねといったイベントも盛り沢山で終始活気溢れる産業まつりとなりました。

ファーマーズマーケット 越冬・漬物野菜市



越冬・漬物野菜市は毎年大盛況で、町内はもとより町外からも多くのお客様が来店されます。本年は10月25日、26日に行われ、漬物用として人気の白人大根や聖護院、総太大根、白菜、キャベツ、長ネギなどが好評で、大勢の買物客で賑わいをみせていました。

今年5月からオープンしている直売所の売上、収益、来客数は10月末で昨年並となっています。

また、9月13日には途別小学校の児童9名が野菜販売体験を行いました。昨年度から始まった取組で、ファーマーズマーケット実行委員のご協力をいただき、食農教育の観点から有意義な体験学習ができるという事で今年度も開催されました。

販売体験をした児童は野菜の補充・陳列等一生懸命でした。また、お客さんも頑張る子供たちの姿を見て、「今日は沢山買って帰らなくちゃ！」とカゴを一杯にしていました。

今年の営業も11月30日が最終日となります。長芋や各種ジャガイモ等地方発送も継続していますので、是非足を運んでください。

収穫終盤

農作物生育状況



幕別町地域		10月15日現在	
作物名	生育概要	生育期節	生育・作業状況
秋まき小麦 【きたほなみ】	莖数3.0本/㎡(2.0)	出芽期 10/1	出芽は良好
	草丈14.2cm(10.5)		
甜 菜	根周37.6cm(37.2)		収穫作業が進んでいる
小 豆	葉数11.0枚(10.7)	成熟期 9/17	収穫作業が進んでいる
	莖長79.2cm(56.1)		
サイレージ用 とうもろこし	稈長280.2本/㎡(280.2)		収穫終了 9/26
馬鈴薯 【メークイン】	莖数4.0枚(3.8)		収穫終了 10/5
	莖長106.5cm(62.2)		

※()内は平年値

十勝では収穫作業が終盤を迎えています。ビートの収穫は終盤に差し掛かり、ナガイモなどの根物野菜の堀り取り作業はピークとなりました。

10月前半は、台風から変わった低気圧が太平洋側を通過して降雨になるとともに、寒気の流入により道東北の峠で降雪がありました。気温は低めに推移したが、日照時間は平年並となったことから、収穫作業は順調に推移し、秋まき小麦は順調に生育しています。(北海道農政部)

十勝農業改良センターによる幕別町地域の農作物生育状況調査結果を見ると、収穫作業が終わったサイレージ用とうもろこしや馬鈴薯は平年より3～8日早く収穫が終了し、甜菜や小豆においても平年並か3日程早く収穫が始まりました。また、好天に恵まれたことで、各農作物は平年並かそれ以上に良い生育概要となっています。

収穫期の終盤と共に疲労もピークとなり、交通事故・農作業事故が多くなってくる傾向があります。夕暮れが早まっており、視界が悪くなっているため、無理な作業を避け、ゆとりをもって収穫作業を行うよう心がけましょう。